慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	巻末に記す
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1932
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.26, No.10 (1932. 10) ,p.2211(705)- 2213(707)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應義塾創立七十五年記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19321001-0705

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

註五二　Thes Suranyi-Unger; Geschichte der Wirtschaftsphilosophie. (Geschichte der Philosophie in Längsschnitten. Heft. I.) 1931. S. 11f.

註五三　杉村廣藏　前掲書四三頁以下參照。

註五四　同書一九頁。

卷末に記す

高橋誠一郎

本論文集は、安政五年に創立せられたる慶應義塾が、本昭和七年を以つて、正に七十五の齡を重ねたるを記念するが爲めに刊行せらるゝものである。而して義塾が創立七十五年を迎へたる本年は又、我が理財學會が創立後二十九年を經過し、三田學會雜誌が創刊以來二十五卷を重ぬたる年である。

現存理財學會に類する學會は、慶應義塾に於いて屢々起つて屢々消滅したるが如くである。而も同會の眞の前身と見る可きものは、明治三十年三月三十二日を以つて成立した「三田理財協會」であつたやうに思はれる

此の「三田理財協會」なるものは慶應義塾大學部理財科學生の創立する所であつて、其の目的は專ら「經濟に關する諸問題を研究する」に在つたのである。其の會員は義塾の理財學士及び理財科學生から成るものである。同會は同年四月十八日三田演說館に於いて大會を開き、

經濟學新派及舊派比較論　ドロッパース

經濟學に就いて　櫻田助作

慶應義塾理財科評論及び米國關稅案の改正に就いて　小手川豐次郎

勸業銀行に就いて　阪谷芳郎

等の講演があつた。米人ドロツパース氏は當時本塾理財科の主任教授であり、阪谷男は同科及び法科の講師であつた。是れ等の講演が終つた後、大廣間に於いて塾長小幡篤次郎氏を中心として講演者並びに會員の懇話會を開いた、其の後、一回、臨時會を開いた後、同年六月十九日第二回例會を開き、シー・キー・ガースト氏の單稅論の講演を聽き、之れに次いで會員の討議が行はれた。而して福澤先生は、同協會の第二回大會が三十一年五月十四日午後六時三田演說館に於いて開會せられた時、之れに出席して、一場の講演を行つて居られる。が不幸にして吾人は今、其の演題をも、內容をも知ることが出來ない。古記錄は唯だ單に「面白き經濟談」を試みられたと誌してゐるだけである。

現在の理財學會が成立したのは、明治三十六年三月であつて、同四月十六日義塾大廣間に於いて其の第一回を催した。出席者鎌田塾長以下五十餘名、先づ堀切善兵衞君（學生）發起人總代として同學會設立の趣旨を述べ、次いで堀江歸一教授は、我が商業政策に就きて論じ、ヴィカース教授は經濟學研究の心得を詳說し、最後に氣賀勘重教授は獨逸に於ける經濟學界の大勢を論じた。右終つて同學會の組織を議し、鎌田塾長を會長に擧げ、指名及び各級會員の選擧によつて堀切善兵衞、里見純吉の兩氏が常任幹事に就任した。

第二回は五月十三日午後一時から同じく大廣間に於いて開催した。來會者は鎌田會長、堀江教授を初め會員三十五名であつた。閱讀を分擔せし雜誌論文に就き學生會員の報告ありたる後、當日の議題「砂糖稅增徵の可否」に就いて討議に移つた。爾後三十餘年、同學會は連綿として今日に及んでゐる。

三田學會雜誌の創刊せられたのは是れよりも遲れて、明治四十二年二月一日であつた。當時、同誌は未だ理財學會の機關ではなく、法、政、文、理、各科を聯合せる所謂「三田學會」なるものゝ發行する所であつた。然るに其の後幾許ならずして揭載論文の範圍を經濟、政治、法律に狹め、更らに大正三年初め理財學會の組織變更と共に本誌を其の機關と爲すに至つた。爰に至つて經濟學理論を研究し、時事問題を討議すると同時に、時々講演會を開き、知名の經濟學者又は實際家を招聘して、其の說を聞くことを目的とした理財學會は純學術雜誌刊行の任務を帶ぶることゝ爲つた。斯くして茲に十九年の歲月を閱した。

吾人は本論文集によつて、慶應義塾の創立七十五年と共に、理財學會創設二十九年、三田學會雜誌創刊二十三年をも併せて記念せんとするものである。